



「言葉の力」を中核とした学校づくり ④

学校や教師をめぐる諸課題

【社会に開かれた教育課程の実現】

- ◆ 子供たちに必要となる資質・能力を学校と社会が共有し、連携して育成します。
- ◆ 学校は、経営方針や教育課程を分かりやすく発信し、保護者や地域の方々から理解・協力を得ます。

【自立した学習者の育成】

- ◆ 与えられた内容に進んで取り組む「自主的な学び」から、自ら判断し決定した内容に、試行錯誤しながら取り組む「主体的な学び」へと学びの軸を転換することは、生涯学び続ける基盤づくりとなります。



【教師と子供、教師間及び子供同士の望ましい人間関係の構築】

- ◆ 体罰の対極にあるのは、子供との信頼関係を高める言葉による指導です。
- ◆ 第183号から記載のとおり、全ての教師が生き生きと働ける職場づくりが必要です。
- ◆ 人間関係形成能力の中核は、対話能力です。国語科に限らず、学校全体で対話や話し合いを重視し、「考える力」、「感じる力」、「想像する力」、「表す力」を高めることが重要です。

【若手教師への指導技術等の伝承】

- ◆ 若手教師の増加により、経験豊かな教師の知恵や指導技術を引き継ぐことが課題となっています。OJT及び教師間のコミュニケーションの活性化を図りましょう。

スタイルの軸

大リーガー 大谷翔平

改めて、積み上げてきたものを継続することの大事さとか、何を捨てて何に新しく取り組んでいくのかを選択することの難しさを感じました。やっぱり変えちゃいけない部分はあるし、自分のスタイルの軸になるものはある。

出典：「大谷翔平は、こう考える」（桑原晃弥著 PHP文庫）

※ スタイルの軸は、組織経営にもあると考えています。